

## 平成26年度計画重点項目

### ◆地（知）の拠点整備事業の着実な実践

島根県立大学憲章に謳う「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」の実現を目指し、平成25年度に文部科学省から採択を受けた「地（知）の拠点整備事業」の事業計画を着実に実践していく。

- 「地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム」事業を着実に実行する。「しまね看護交流センター」は“ワンストップサービス”の“わかりやすい相談窓口”として、受託・共同研究事業、キャンパスツアー・出前講座を進め、「しまね地域共生センター」は、地域志向の共同研究の推進とその成果の公表を行うとともに、学内競争的研究費等を用いた実用化研究に取り組む。(No. 46~48, 53, 54, 57)

#### 【島根県立大学】

- (全体)
  - ・第2回全域フォーラムの開催
  - ・地域ニーズ調査活動の実施
- (教育)
  - ・「しまね地域共生学入門」シラバス作成（短期大学部と共通）
  - ・しまね地域マイスター認定制度の構築
- (研究)
  - ・「しまね地域共育・共創研究助成金」の推進
- (社会貢献)
  - ・公開講座の遠隔地受講
  - ・学生ボランティア活動検討会の開催

#### 【島根県立大学短期大学部】

- (教育)
  - ・「地域志向」教育連携協議会の開催
  - ・「地域志向」シラバスにおける「地域志向科目」の説明
- (研究)
  - ・学外研究協力者（研究者）との科目開発共同研究開始
  - ・研究連携協議会の開催、しまね地域共生センター紀要の発行
- (社会貢献)
  - ・公開講座のICT・情報教育システム（COC<sup>2</sup>-Net）環境利用
  - ・学生ボランティア活動の推進

### ◆国際交流推進体制の整備

グローバル化の進展に対応する人材を育成するため、留学生や短期語学研修生の派遣及び受け入れを推進する。また、海外大学との交流促進による教育的・学術的ネットワークの拡大や地域の国際化への貢献等を目的とした全学センター（国際交流センター（仮称））の新設に向けた準備を進める。

- 国際交流センター（仮称）の準備委員会を中心に、速やかな設置に向けて制度設計を行う。(No.65)
- 「異文化理解研修」等への学生参加の促進、新たに留学協定を締結したワナチ・バレー・カレッジへの留学生の派遣、蔚山大学校へのダブルディグリー派遣学生のフォロー並びに同派遣候補生の語学力向上の取組み等を行う。(No.61, 62)
- 英語圏の学生を対象とした短期語学研修の実施を検討する。(No. 60)

### ◆学生確保、学生支援の充実強化

今後、18歳人口が急速に減少していくことを見据え、学生募集活動を強化するとともに、社会人学生の取り込みを拡大していくための取り組みをおこなう。また、在学生への支援として学生生活に困難を来す学生への対応を適切におこなう。一方で、就職支援については、変化する情勢を的確に分析し、遺漏のない対応策を講じるとともに、各キャンパスの特徴に応じた支援策を展開する。

- 志願者数の増加につなげるため、学部・大学院・短期大学部それぞれの状況に応じた学生募集活動に取り組む。社会人の受け入れ促進のため、総合政策学部では「科目等履修」や「聴講」制度等の積極的な周知・活用を行い、大学院では6限目や7限目の授業時間を時間割上に配置するなど、柔軟な時間割編成を行う。出雲キャンパスでは県内看護職のためのキャリア支援事業を企画し、松江キャンパスでは、資格取得支援に関わるリカレント講座を開催する。(No. 3, 11, 12)
- 浜田キャンパスでは、学生とのコミュニケーションの活性化のため、教職員向けの学生対応の向上に関する研修会を実施する。障がいのある学生への支援として、出雲キャンパスでは、出願時の対応方法の検討（特に身体障がい）を行い、松江キャンパスでは、体系的な支援組織・支援内容の構築と機能強化、支援に関する情報の共有化に取り組む。(No.32, 34)
- 就職活動の開始時期が後倒しになることについて、情報収集、分析を行い、対応策を明らかにする。また、浜田キャンパスでは、公務員受験対策として「公僕学舎」の取り組みを行い、出雲キャンパスでは、卒業生・修了生の就職先と連携して、卒業生・修了生に対するキャリア支援を強化する。松江キャンパスでは、特に総合文化学科の就職決定状況が厳しいため、キャリア意識の早期形成、就職活動指導の徹底、学外就労支援機関や保護者との連携強化に努め、就職決定率の向上を図る。(No.35, 37)